



2018年10月 南アフリカ新聞第15号

# SABONA

鈴木 壮太

みなさんこんにちは。こちら南アは春から夏に向かい、本格的に暑くなってきました。そして日本を離れ、南アに来てから1年以上が経ち、残り半年で日本に帰ります。こちらでは、日々現地の人々の優しさに触れながら生活しています。

そこで今回は、いつもお世話になっている方の1人、ルーシーさんを紹介합니다。

## 南アの母



写真の女性は、私が活動する学校の先生です。Lucy Minah Shongwe(ルーシー・マイナー・シヨングウェ)という先生です。苗字がシヨングウェ、ミドルネームがマイナー、そして名前がルーシーです。3人の子供を持つ母であり、小学2年生のクラスを担任しています。私はこのルーシーさんにとってもお世話になっています。まさに私にとって南アの母のような存在です。実は毎日お弁当を作ってきてくれて、いつもお昼ご飯と一緒に食べています。

【写真：ルーシーさんが作ってくれるお弁当。私の好きな魚と野菜を多めに入れてくれる。



## ルーシー家



休みの日にルーシーさんの家に遊びに行くことがあります。写真はワールドカップの日本戦を観戦している様子です。ルーシーさんの旦那さん(ノアさん)がブブゼラという南アの楽器を使って日本を応援していました。私が差し入れに持て行ったおやつは、観戦の興奮に紛れてほとんど自分で食べてしまいました。(反省)



ちなみにノアさんも学校の先生で、よく一緒に授業をします。【写真：5年生の重さの授業。0.5ℓと5ℓの水の重さを比べている様子。】

このご夫婦の存在がなければ、これまで南アで活動してこれなかったかもしれません。それくらい2人には感謝しています。

## おまけ



先日、1年に1度、しかも2週間という短い期間だけ、乾いた荒地が一面の花畑になるナマクアランドという場所に行ってきました。毎年必ず咲くわけではなく、雨季に十分に雨が降らないと花は見られません。また、花を見に行く際に晴れていないと花びらが開きません。そのため、今年は見られるかどうか少し不安でしたが、片道7時間かけて行ってきました！シーズンが終わりかけているときだったので、花の種類は少なかったのですが、それでもたくさんの花に出会うことができました。